

## 第2章 情報社会の影の部分と子どもたちを取り巻く環境

### 第1節 情報機器の発展と子どもたちの関わり

近年の情報化社会は、子どもたちにとって良くも悪くも影響を与えることになる。情報機器が子どもに与えるということは、これまでもあった。一番大きなものはテレビであろう。戦後テレビが急速に普及し、今の子どもたちにとってテレビは、よりパーソナルなものになり、チャンネル権争いなどという言葉もあまり耳にしなくなった。テレビ番組の質もずいぶん問われてきた。子どもたちの言葉づかいも大きな影響を受けてきた。コマーシャルによって子どもたちの嗜好品や玩具までも左右されてきた。これとは別なマンガ雑誌やラジオなども子どもたちに少なからず影響はある。

しかしながら、この論文で問題にしようとしている携帯電話やパソコンなどの情報機器とは根本的に違うところがある。テレビやラジオ、新聞、雑誌などは全て情報が一方通行である。それに対して、携帯電話やパソコンは、インターネットを介することで、双方向性となる。

その他にも次のような特徴が挙げられる。

#### 2.1.1 匿名性がある。

インターネットの世界は匿名性があり、発信人自身を偽ろうとすれば、氏名、発信場所、年齢、性別、職業など全て架空のもので情報発信をすることができる。このことは、情報の内容の真偽を疑うことにもなるが、その一方で、匿名で真実を自由に発言できるという側面もある。援助交際などの性非行では、お互いがいったい誰なのか本当の名前も明かさないうまま、金銭の約束が成立し、体と時間が共有され、金銭の取引が行われているという事実がある。子どもにも、大人にも悪い意味で都合がいいのである。

#### 2.1.2 不特定多数に情報発信ができる。

テレビやラジオでは、放送局からのみの情報発信ではあったが、インターネットのWEBを使うことにより、インターネット接続環境があれば、どこからでも、いつでも、だれでもが情報発信をすることができるようになった。小学生の子どもたちでも、自分のホームページを立ち上げると、それは、世界中から、アクセスしようと思えばアクセスできる状態になる。このことにより、WEB上の情報は日々雪だるま式に膨れ上がっており、インターネット上にない情報はない位に情報が氾濫することになった。また、の匿名性とも関連して、暴力、性非行、薬物、違法行為などのいわゆる有害情報をも、子どもたちがいとも簡単に手に入れることができるような事態を招いてしまうことにもつながっている。

#### 2.1.3 いつでもどこでもほしい情報が手に入る。

テレビやラジオでは、見たい番組は、番組表で確認し、その時間を待っていた。しかしながら、インターネットを使った世界では、のちょうど逆の立場になるが、受け手は、自分が知りたい情報、見たい情報についてネットがつながる環境であれば、いつでも、ど

こでも見ることができるという特徴がある。これは、学校教育においても、「総合的な学習の時間」をはじめ調べ学習においては、非常に有効である。しかしながら、その情報が根拠のあるものなのか、誰が発信しているものなのか、明確でない情報も多く、受けては情報を取捨選択する能力が求められる。

#### 2.1.4 不特定間の人間関係が形成されやすい

時間を越えて、地理的な環境を越えて、情報を共有することができるインターネットでは、お互いの趣味や思考、信条など、共感するもの同士がネット上のコミュニティーを形成することがよくある。子どもたちにとっても小学生や中学生が集まるチャットから特定の子ども同士の間人間関係が形成されて、お互いの近況報告などが活発に交わされることが多い。さらには、悩みや相談事などかなりプライベートな面までにもお互いの心を開いて情報交換が行われることもある。しかしながら、時にはそこまでの心を開いた関係であっても、お互いの本当の名前も知らないでいる場合も少なくないと思われる。また、ネットの特徴でもある文字だけの情報であるゆえ、ちょっとした言葉の解釈の違いから、お互いの関係にヒビが入り、人間関係が壊れ、罵声を浴びせあうまでエスカレートする場合もある。

#### 2.1.5 非常にパーソナルな機器である。

特に携帯電話については、非常にパーソナルな機器である。個人への連絡は、携帯電話で行われることが多い。子どもたちにとっても、従前は家の電話で呼び出しをしていたものが、直接本人に電話をかけることになり、遅い時間でも、気にすることなく連絡がとれるようになった。また、親としては、子どもがどんな友だちつきあいをしているのか知る手段が減ってしまったことになる。

このように、パソコンや携帯電話などの新しい情報機器が入ってきたことにより、大人社会においては、非常に生活が便利になってきた。その一方、この節で触れただけでも、子どもの生活スタイルにも大きな影響を及ぼしてくることが分かった。